

前回調査検討委員会での意見への対応

平成 20 年 3 月 21 日 (金)

日時；平成20年2月18日（金）15：00-17：00

場所；博多都ホテル 桐の間

1. 調査全体の進め方

No.	意見	対応
1	分析過程で、市町村単位、集落単位双方の捉え方が若干混同しているように見受けられる。改めて、集落に調査の焦点を当てつつ、方針を確認する必要がある。（小川委員長）	⇒直接面接調査結果を集落に関する項目、それを取り巻く市町村に関する項目で整理。

2. NPOの活動実態

No.	意見	対応
2	人口減少・高齢化している集落の周辺地域におけるNPOの組織の有無、取組について把握する必要がある。（吉武委員）	⇒以下の視点から、人口減少・高齢化の進んでいる集落の周辺地域におけるNPOの有無、取組を把握。 ・直接面接調査対象地に所在地のあるNPO法人の有無とその取組状況。 ・人口減少・高齢化の著しい地域に所在地のあるNPO法人の有無とその取組状況。

3. 既往資料調査

No.	意見	対応
3	・鉄道と道路による交通の整備状況が問題とされているが、海の場合の交通はどうか。（山田委員） ・鉄道・道路圏域を示したNITAS図には、離島が含まれていない。時間内で到達不能であるため、色が塗られていない（白）ということか。離島も図面範囲に入れる必要がある。（矢田アドバイザー）	⇒離島も含め、空港、道路、フェリー航路を考慮した時間圏域図を作成。 (P3参照)
4	集落の生活を支える拠点を考える際、救急医療機関との関係も重要であると考えられる。（小川委員長）	⇒2次救急医療施設を基点に時間圏域図を作成。 (P4参照)
5	今回、調査の対象となる集落では高齢化が進んでおり、自家用車を日常的な交通手段とみることが一般的ではないケースもあると思われるので、コミュニティバスなどの公共交通のことも留意する必要がある。（北園委員）	⇒直接面接調査において、公共交通の有無、利用状況、運用状況を把握。

4. 調査対象地の抽出について

No.	意見	対応
6	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の若い人は正規雇用^{せいぎう}に就く人も少なくなっているのではないかと考える。(山田委員) ・種子島はサーファーの移住が多い。しかし、奄美の瀬戸内町の嘉徳^{かたつぐ}は、同じくサーフィンのメッカだが、種子島のような移住はほとんどない。この二つの地域の違いについて分析することも考えられるのではないかと考える。(山田委員) 	<p>⇒直接面接調査対象地選定の際に留意。 (資料2参照)</p>
7	<p>直接面接調査の対象地の数ほどの程度か。また、集落機能の切実な問題を具体的にどのように捉えるのか。それによって、選定場所はまったく変わってくるのではないかと考える。(山田委員)</p>	
8	<p>若い人ががんばっている地域を選定することも考えられるのではないかと考える。(吉武委員)</p>	
9	<p>高校を財政難から統合する動きがある。高校がなくなる地域では、高校生がいなくなってしまうということが起こっている事例も考えられるのではないかと考える。(北園委員)</p>	
10	<p>知事会で話す機会があり、長崎県の離島地域、船舶でのアクセスに限られる地域の活性化は大きな課題ではないかと考える。(矢田アドバイザー)</p>	
11	<p>直接面接調査の対象地の選定にあたっては、集落の「人口規模」と集落から中心拠点への距離が基本のファクターになると考えられる。(小川委員長)</p>	

意見への対応1 生活中心都市から各市町村への到達時間

NITAS を利用して、生活中心都市¹⁾ から各市町村（旧市町村含む）へ、「道路」、「鉄道」、「航空」、「船舶」の全モード時間圏（90 分圏）を分析した場合の圏域図は、右図に示すとおりとなる。

生活中心都市から地理的条件の厳しい地域は、熊本県、宮崎県の中山間地、生活中心都市のない屋久島、種子島などの離島部でみられる。

※時間圏図は、各々の旧市町村（平成 12 年時）役場を起点・終点として所要時間を算定し、旧市町村単位で時間圏図を作成している。ただし対馬、壱岐については、平成 16 年以前の合併前旧市町村区分データがないため、別途対馬市役所、壱岐市役所それぞれを起点とし、終点を 3 次メッシュ²⁾ として圏域図を作成している。

- 1) 生活中心都市：高校 1 以上かつ救急病院 1 以上かつ商業施設 3 万㎡以上
- 2) 3 次メッシュ：国土地理院 1/2.5 万地形図に該当（約 1 × 1 Km）
- 3) NITAS 算定の際は、今回対象の九州圏の範囲のみ計算している。

NITAS: National Integrated Transport Analysis System :

「道路」「鉄道」「航空」「船舶」の各交通機関を組み合わせることで総合的に交通体系の分析を行うシステム

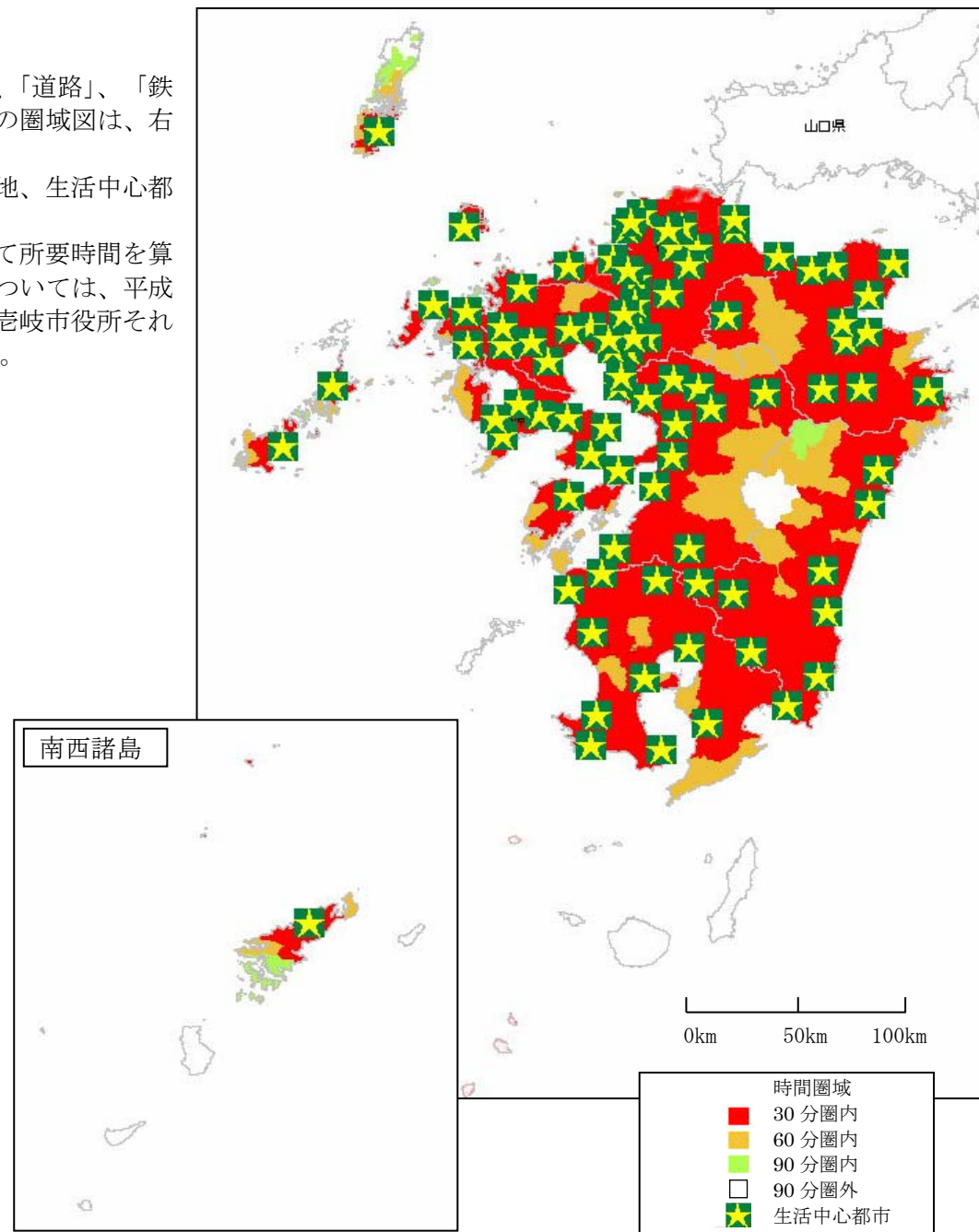


図1 生活中心都市から各市町村までの到達時間圏図

意見への対応 2 二次救急医療施設の時間圏域

二次救急医療施設から「道路」モードの場合の終点3次メッシュ¹⁾時間圏域(90分圏)は、右図に示すとおりとなる。二次救急医療施設から地理的条件の厳しい地域は、熊本県、宮崎県の中山間地や、対馬、屋久島、奄美諸島などの離島部でみられた。

※九州圏における2次医療施設：83病院(2006年度版NITASより)

福岡県 : 18 病院
 佐賀県 : 7 病院
 長崎県 : 11 病院
 熊本県 : 13 病院
 大分県 : 12 病院
 宮崎県 : 11 病院
 鹿児島県 : 11 病院

1) 3次メッシュ：国土地理院1/2.5万地形図に該当(約1×1Km)

■救急医療施設の概要

①初期救急医療施設

休日や夜間における外来診療(入院の必要がない)ですむ救急患者に対応。

②二次救急医療施設

入院治療を必要とする重症救急患者に対応。

③三次救急医療施設

二次救急医療機関では対応できない重篤の救急患者に対応。

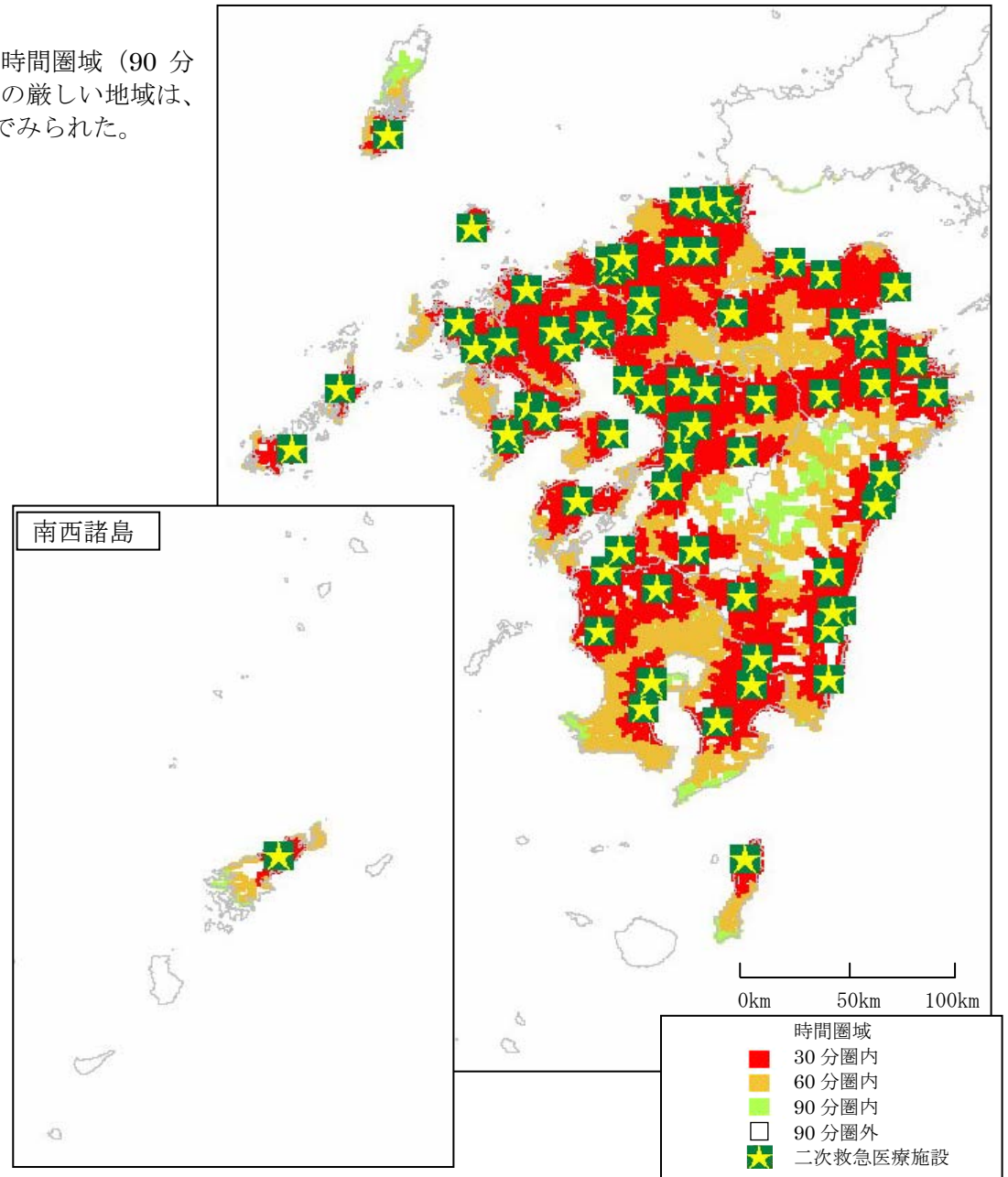


図2 二次救急医療施設の時間圏図